

	ネットワーク化	統合	多様な組織の参画	棚田振興	スマート農業
取組概要			○	○	

集落資源を保全・活用し多面的機能を発揮するための活動体制の構築

- 棚田や重要伝統的建造物群の「保全」から「活用」への転換により、関係人口が増加
- 集落の伝統と文化を守るため、集落以外の人や組織と連携し安定した活動体制を構築

集落の課題

過疎化が進行する集落

- 居住する世帯は24戸あったが過疎化により11戸まで減少している。
- 棚田や伝統的建造物が織りなす農村風景を維持するため、どのように次世代の担い手を確保するかが課題



【取組箇所】

取組内容

多様な組織等と連携した活動体制の構築

- 住民の減少・高齢化が進む中で、伝統的な住居や棚田、北アルプスを臨む美しい農村風景を維持するために、非農家・地域外住民・大学生との協働による景観保全活動（用水路清掃、稲の作付け、草刈り等）を実施し、労働力不足を補っている。
- 山に囲まれ地形的に独立しているという集落の農地の強みを活かし、白馬村の特産品開発事業と連携して「紫米」を栽培し、地元の道の駅やレストラン、村内のコンビニエンスストア等で提供している。（高付加価値型農業の実践）



【集落の様子】



【活動参加者】



【紫米のおにぎり】

取組の目標

棚田地域の振興

- 【生産性・付加価値の向上】
 - 導入した乗用草刈機を活用し、一人あたり年間作業時間を少なくとも10%減らす。
- 【伝統文化の継承】
 - 鬼棚田地域が属する行政区の祭り（青鬼地区火揉みの神事）を継承し、開催を継続する。
- 【関係人口の創出・拡大】
 - 令和12月3月までに、棚田保全活動に係るボランティア活動に参加する人数を、10名以上増加させる。



【棚田の様子】

取組地域の概要

○位置



白馬村

○地域の概要

- 白馬村東北部に位置し、茅葺屋根の家屋や土蔵が軒を連ねる歴史ある生活風景の残る地域で「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

○主要作物

- 水稻

○集落協定の概要(令和7年現在)

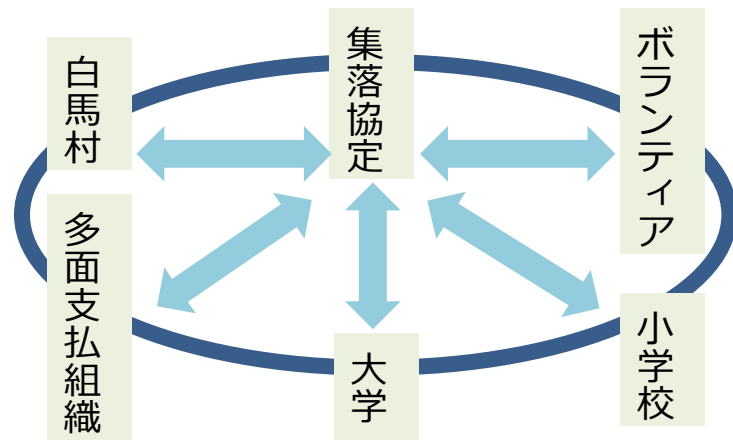
- 面積：4.6ha(田)（急傾斜4.6ha）
0.1ha(畑)（緩傾斜0.1ha）
- 交付金額：144万円
（うち棚田地域振興活動加算46万円）
- 構成員：農業者12人、非農業者5人
- 連携組織：多面払の活動組織 等
- 協定開始：平成12年度

(参考資料)

① 位置図



② 体制図



活動の連携

- ・村の特産品として「紫米」を栽培（高付加価値型農業）
- ・集落農業者の負担軽減のため水路清掃・草刈り等への非農業者等ボランティアの参画（関係人口の増加）
- ・伝統的建造物群や棚田による集落の観光地化（交流人口の増加）
- ・収穫体験や水路清掃への参加により学生との連携・学習の場の提供

③ 取組の様子



【水路補修の様子】



【草刈の様子】

	ネットワーク化	統合	多様な組織の参画	棚田振興	スマート農業
取組概要	○		○	○	○

営農継続と事務負担軽減に向けた町全体でのネットワーク化

- 事務局機能を外部委託することで、集落の事務負担が軽減され、営農継続に向けた体制の強化につながる
- 町全体でのネットワーク化により、草刈りや鳥獣被害対策等の共同活動の効率化が図られる

集落の課題

高齢化と獣害の深刻化

- ・高齢化や後継者不足により、農業生産活動の継続が困難となり、農地の荒廃を懸念
- ・イノシシ等による農作物被害が著しく、農業生産の減少と生産意欲の減退が生じている。



【四谷尾集落の棚田風景】

取組内容

事務負担の軽減と増加する課題に対応可能な営農体制構築

- ・集落が一体となって電気柵や耐雪型侵入防止柵の設置作業のほか、牛の水田放牧実施による、鳥獣被害の発生防止を更に強化しているが、イノシシ等による農作物被害が年々深刻化している。
- ・高齢化や後継者不足により事務負担も増加傾向にあることから、事務負担を軽減し営農が継続できるよう、町内にある他の9協定と町全体でネットワーク化を行うとともに、「谷口集学校（IT交流拠点として地域を支援）」に協議会事務局機能の委託を開始。
- ・ネットワーク化加算等の交付金相当額の8割を連絡協議会の活動資金としている。
- ・これまでも、立山町各協定の取りまとめを行う「立山町中山間地域連絡協議会」を通じ、各集落代表との情報交換を図りつつ、棚田地域振興活動加算を活用してドローンによる共同防除を実施。
- ・今後の協議会全体で実施する取組はアンケート調査を経て決定する予定。



【事務局（谷口集学校）の様子】

取組の成果又は目標

協定参加者、取組面積の拡大

- ・事務負担の軽減により、営農体制の強化や集落協定参加者及び面積の維持を目指す。

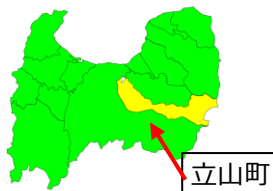
	令和7年	令和11年
構成員	46名	46名
協定面積	46.0ha	46.0ha
参加団体	農業法人 その他法人 (2団体)	農業法人 その他法人 (2団体)

- ・四谷尾集落を含む東谷地区では、令和5年度豪雨災害からの復興や地域活性化を目指し、令和5年度から農村RMO東谷活性化協議会として活動を開始。

- ・関係人口の増加を図り、集落機能の維持と協定活動の活性化にも取り組んでいく。

取組地域の概要

○位置



立山町

○地域の概要

- ・立山町中心部から約5km南東方向に位置する山間地域にある。

○主要作物

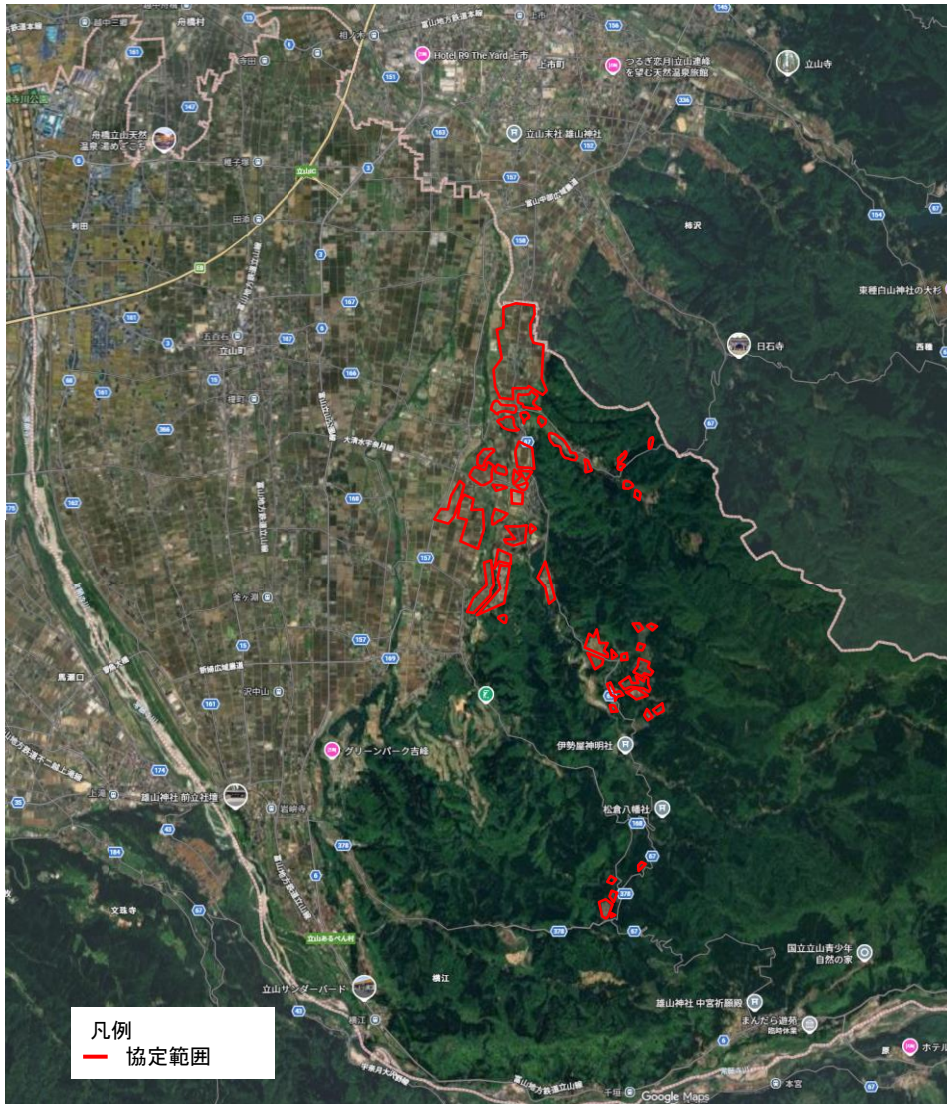
- ・水稻、サツマイモ

○集落協定の概要(令和7年現在)

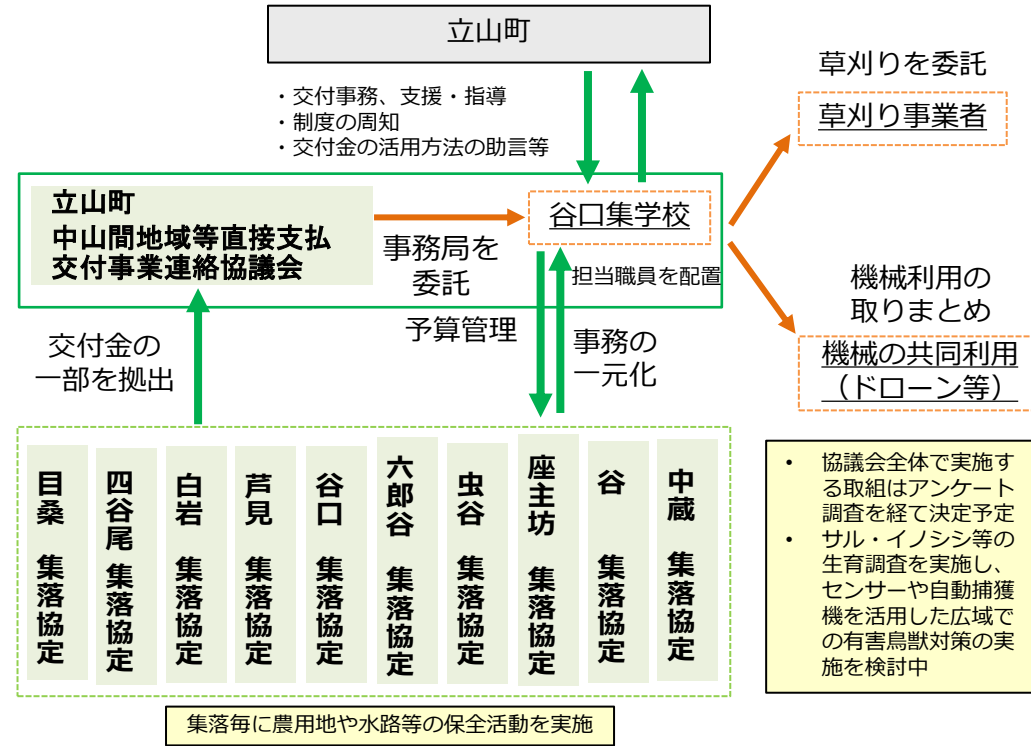
面積：46.0ha(田)
(急傾斜19.4ha、緩傾斜26.6ha)
交付金額：916万円
(個人配分37%、共同取組活動63%、うちネットワーク化加算100万円)
構成員：農業者44人、農業法人1法人、その他法人1法人
連携組織：土地改良区、自然ふれあい館等
協定開始：平成12年度

(参考資料)

① 位置図



② 体制図



③ 取組の様子



【ドローンを活用した農作業】



【小学生によるサツマイモの苗植え体験】 13

	ネットワーク化	統合	多様な組織の参画	棚田振興	スマート農業
取組概要		○	○	○	○

協定統合によるスケールメリットを活かした営農体制の強化と棚田米の生産拡大

- 活動の継続が困難な農用地も含めて統合することで、活動の継続が可能に
- 加算措置を活用して、「つなぐ棚田遺産」の認定を受ける棚田での生産性向上と交流人口の拡大につなげる

集落の課題

担い手が不足

- ・高齢化や後継者不足により、農業生産活動の継続が困難となり、農地の荒廃を懸念
- ・鳥獣被害が著しく、農業生産の減少や生産意欲の減退が生じている。



【山に囲まれた当目棚田】

取組内容

協定の統合により活動の継続と取組の拡大

- ・令和7年度から、極楽寺、中組、蓮花坊、甲地、田代、当目棚田の統合により取組開始。
- ・「当目千石棚田」として「つなぐ棚田遺産」の認定を受け、奥能登源流水を活かし、栽培した米を「当目の米」としてブランド化し、販売。
- ・県内外大学生を受け入れ、農業・農村体験の実施や、伝統的な農耕儀礼「あえのこと」の実演を通じて、交流人口の拡大につなげている。
- ・能登半島地震以降は、多くのボランティアによる支援を受け、米作りを継続。大規模化が可能な農用地は農業法人が、それ以外の農用地は各農家が担う体制を維持。
- ・営農体制の継続のためには、外部人材による支援も不可欠であるため、ネットワーク化加算を活用して、交流人口拡大を図っていく。
- ・また、スマート農業加算を活用して、栽培管理支援システムの導入により、更なる生産性向上に向けて取り組む。



【ボランティアさんとの稲刈】

取組の成果又は目標

取組面積、交流人口の増加

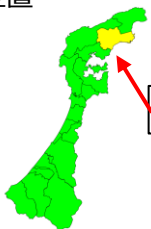
- ・統合による効率化を活かし、協定面積の拡大や交流人口の増加を目指す。

	令和7年	令和11年
地区数	6地区	6地区
構成員	29名	60名
協定面積	65.6ha	75.9ha
参加団体	農業法人(3組織) その他法人(3組織)	農業法人(3組織) その他法人(3組織)
交流人口	50名	300名

- ・空き寺を改修した交流施設・宿泊施設の導入を進め、交流人口の拡大につなげる。
- ・栽培管理支援システムの導入により、作業効率化・生産性向上を進め、棚田米の生産を増加させる。

取組地域の概要

○位置



能登町

○地域の概要

- ・奥能登の中央に位置し、町野川、河原田川、山田川の分水嶺となる山間地の谷筋に作られた棚田での稲作と林業を基幹産業とする地域

○主要作物

- ・水稻

○集落協定の概要(令和7年現在)

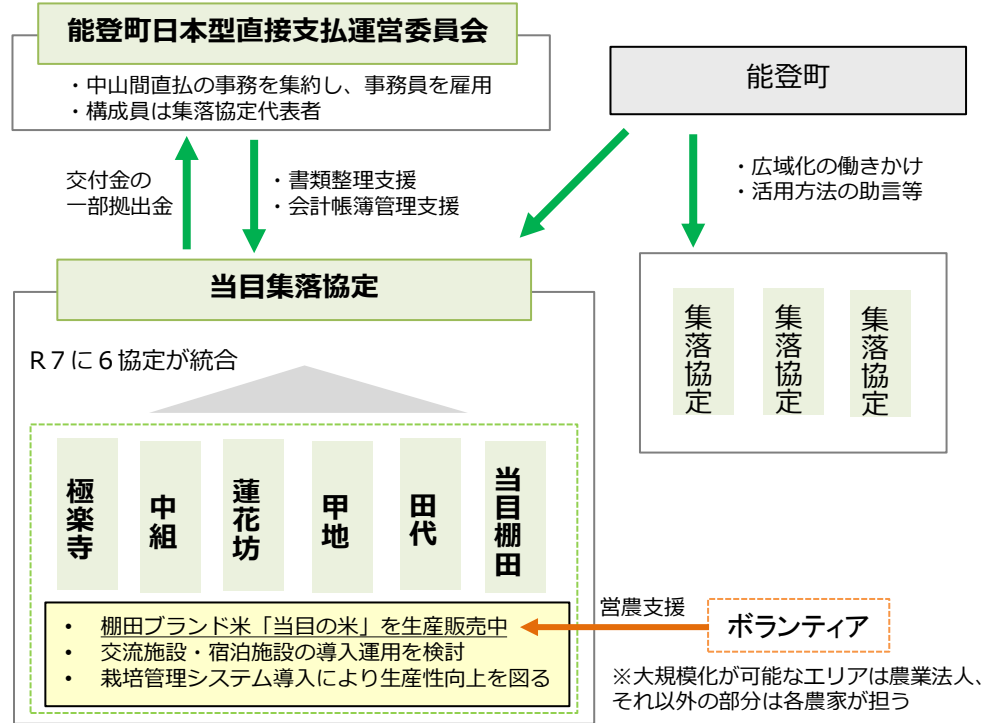
面積：65.6ha(田)
(急傾斜9.7ha、緩傾斜55.9ha)
交付金額：1,263万円
(個人配分45.1%、共同取組活動54.9%、うちスマート農業加算200万円、ネットワーク化加算412万円)
構成員：農業者26人、農業法人3組織
連携組織：多面払の活動組織
協定開始：令和7年度(同年度に統合)

(参考資料)

① 位置図



② 体制図



③ 取組の様子



【豪雨災害による流木拾い活動支援】



【「当目の米」販促活動（東京）】